

乳がん治療を経験した作家が綴る —あなたに伝えたい—

罹患から寛解までの、日々のできごと



—2021年のコロナ禍のさなか、カナダ・バンクーバーで暮らす著者に「浸潤性乳管がん罹患」が告げられた— 日本とは異なる医療制度のなか、周囲の助けを借りながら、自分にとって最善の治療を選択した著者の、かけがえのない日々を綴ったエッセイをご紹介します。



くもをさがす

2023年 河出書房新社

西 加奈子（著）

[1100-3]



著者紹介

職業

小説家・エッセイスト

1977年イラン・テヘランで生まれる。

2歳で帰国、小学1年生から4年生までエジプト・カリヨンで育ち、帰国後は大阪府で育つ。

2004年『あおい』で作家デビュー

受賞歴

2007年『通天閣』で「織田作之助賞」受賞

2013年『ふくわらい』で「河合隼雄物語賞」受賞

2015年『ふくわらい』で「直木賞」受賞

著者が住む、カナダ・バンクーバーの家は「くも」の多い家だった。5階建構造のその家には、あらゆる場所に「くも」の巣があった。

5月のある日、著者は左足の膝と右足のふくらはぎに、ぎょっとするほどの大量の赤い斑点を見つけた。それらは耐え難いほどのかゆみをもたらし、著者が医療機関で診察を受けるきっかけにつながっていった。

日本とは異なる医療システムに時間を費やして、ようやくかなった対面診療。著者はその機を捉えて、医師に以前から気になっている「右胸のしこり」について話した。触診した医師はすぐに超音波検査の紹介状を書いてくれた。

著者は3週間後に、超音波検査に続きマンモグラフィー検査も受けたが病状の判断は難しく、さらに針生検を受けることになった。著者はふと思った。「『くも』はどうして、私をあんなにもかんだのだろうか」と。

検査の結果は電話で告げられた。「病名は『浸潤性乳管がん』であり、今後は『キャンサーセンター』が引き継ぐ」とのことであった。しかし、「クリニック」と「キャンサーセンター」の連携がうまくいかず、電話でのやり取りが続く。

日本とカナダの医療制度の違いや言葉の壁に不安を募らせていく著者はこの日、初めて泣いた。「日本に帰りたい」とも思った。お風呂の湯に顔をつけて、ひとり「こわいよ」と叫んだ夜もあった。

友人の助けを受けて問い合わせを続けた結果、数日遅れで担当医が決まった。やがて怒涛の検査ラッシュが始まる。

「MR I、PET検査、針生検、遺伝子検査など」の結果を経て、ステージ2の「トリプルネガティブ乳がん」の治療方針が決まった。治療は、「抗がん剤投与後に左右乳房の全摘手術」、「手術当日退院」、その後「放射線治療」へと続く。

医療機関との電話のやり取りや病院への付き添い、幼い子どもの世話、そして半年間、「Meal Train (※1)」をオーガナイズ (※2) して、「食べる楽しみ」を毎日提供し続けてくれた多くの友や家族の愛に包まれて、著者は苦しい治療を乗り越えていった。

手術事前説明で、「乳房の再建手術のために、乳首を残すこともできる」と言われて、著者は少し迷う。

その迷いを乳がんサバイバーの看護師に話すと、「乳首って、いる?」と尋ねられた。ないと不自然だとなぜ思い込んでいたのか。彼女が見せてくれた「再建していないその胸」はとても恰好(かつこう)良かった。

そして著者はこう思う。「その体が自分のものである限り、それは間違いなく本物なのだ。自分の体は自分のものだ。本物の私たちの身体を、誰かのジャッジに委ねるべきではない。」著者は「乳首」を残すことを選択しなかった。

見た目に対する基準は、社会によって作られ、思い込まれてきたものだ。

「思い込んだもの」が自分の基準になるのであれば、「自分はこのままですばらしいのだ」と言い聞かせよう。鏡を見るたびに。

著者は、「がん」の告知を受けてから、自分に起こっている出来事と、自分自身の間には「一定の距離」があったと綴っているが、手術直前の薬剤投与で「とんでもない状況」が発覚したのをきっかけに、自分を取り戻すことができたとも綴っている。そこから、医療スタッフに心の中で次々と「突っ込み」を入れていく「さま」は、まるで、テンポのよい漫才のようだ。乳房との別れは終わった。

著者の人生は続していく。喜び、悲しみ、怒り、笑いながら、私たちも毎日を生きる。

それは、それだけですばらしいことなのだと思う。(こなつ)、(みつと)



(※1) Meal Train: 出産直後の母親や、病気などで食事の準備が厳しい人に、友人や家族が手作りの食事を届ける相互扶助のシステム。予定をカレンダーに記入して行う。

(※2) オーガナイズ: ものごとを「組織化する」、「編成する」、「計画する」、「準備する」などの意味を持つ、「organize」を語源とするカタカナ語(外来語)。